

平成28年8月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,348	8,774	4,432	4,342	7	5
2 千 石	3,925	6,747	3,407	3,340	3	△ 19
3 内 山	5,226	7,418	3,906	3,512	16	0
4 大 和	3,329	6,532	3,226	3,306	32	52
5 上 野	7,267	15,470	7,697	7,773	23	24
6 高 見	7,126	13,314	6,399	6,915	11	39
7 春 岡	6,693	10,800	5,695	5,105	11	18
8 田 代	11,407	21,745	10,457	11,288	1	△ 4
9 東 山	10,211	19,288	9,514	9,774	7	△ 17
10 見 付	4,475	8,387	4,257	4,130	△ 40	△ 33
11 星 ケ 丘	3,504	6,863	3,133	3,730	3	△ 2
12 自由ケ丘	3,554	7,323	3,344	3,979	1	0
13 富士見台	6,391	15,414	7,147	8,267	△ 2	△ 6
14 宮 根	3,732	8,345	3,978	4,367	△ 6	△ 5
15 千代田橋	3,572	8,555	3,986	4,569	△ 10	△ 24
千 種 区 計	85,760	164,975	80,578	84,397	57	28
H27.8.1	83,376	164,157	80,048	84,109	△ 9	81
対 前 年 比	2,384	818	530	288	66	△ 53
名 古 屋 市	1,070,756	2,303,451	1,137,174	1,166,277	348	306
愛 知 県 (H28.7.1)	3,099,819	7,504,117	3,753,082	3,751,035	2,628	3,108

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	111	106	5	994	971	23

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	これまでの最少人口	
平成2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

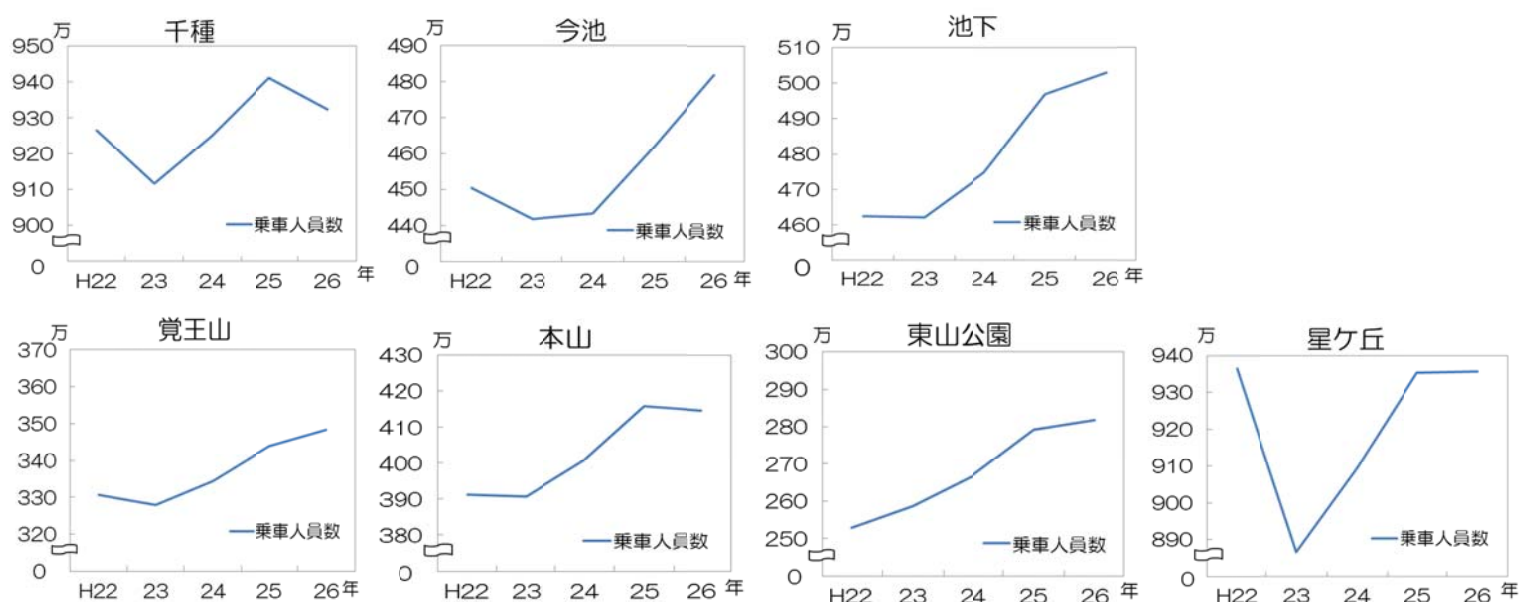
注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果の本市独自集計速報値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区内の地下鉄各駅の乗車人員の状況

平成 28 年 8 月 1 日現在の千種区の人口は 164,975 人となっており、世帯数は 85,760 世帯となっています。今回は、平成 28 年 3 月発行の平成 27 年版名古屋市統計年鑑より、千種区内にある地下鉄各駅の乗車人数の状況を見てみます。

まず、東山線を見てみると、平成 25 年度から平成 26 年度にかけて、今池、池下、覚王山、東山公園、星ヶ丘において乗車人員数が増加しています（図 1）。平成 26 年度の乗車人員数の多い駅は、順に星ヶ丘（約 936 万人）、千種（約 932 万人）、池下（約 503 万人）であり、商業が盛んな地域や、学校の多い地域に位置する駅が目立ちます。また、星ヶ丘では、平成 22 年度が乗車人員数のピークですが、平成 23 年度に大きく減少した後、平成 26 年度まで増加しています。一方、星ヶ丘を除くすべての駅において平成 22 年度から平成 26 年度にかけて増加傾向がみられ、平成 26 年度はいずれも平成 22 年度の乗車人員数を上回っています。

図 1：千種区内の東山線各駅の乗車人員数（他路線の乗車人員数は含まない）



つぎに、名城線をみてみると、平成 25 年度から平成 26 年度にかけて、茶屋ヶ坂、名古屋大学において乗車人員数が増加している一方で、自由ヶ丘、本山においては乗車人員数が減少しています。（図 2）。平成 26 年度の乗車人員数は名古屋大学が最も多く（約 391 万人）、文教地区としての存在感を放っています。また、茶屋ヶ坂では毎年度乗車人員数が増加し続けています。名古屋大学では、平成 22 年度が乗車人員数のピークですが、平成 23 年度に大きく減少した後、平成 26 年度までゆるやかな増加傾向がみられます。一方、名古屋大学を除くすべての駅において平成 22 年度から平成 26 年度にかけて増加傾向がみられ、平成 26 年度はいずれも平成 22 年度の乗車人員数を上回っています。

図 2：千種区内の名城線各駅の乗車人員数（他路線の乗車人員数は含まない）

